

◎小樽市みらい創造プロジェクトチームの事業案

チーム	施策の方向性	施策	事業	事業概要
A	地場産業の振興	にぎわい再生プロジェクト	小樽の魅力再発見事業	<ul style="list-style-type: none"> ・道内容のリピーター層を増加させるため、小樽市民がおすすめする店舗等を掲載したマップの作成し、小樽の魅力を再発見する。 ・ツイッター及びフェイスブック等のSNSを活用した情報発信を行う。 ・マップ掲載店の利用者に対する特典を設定する。
			新たな回遊ルートづくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市内宿泊数や滞在時間を増加させるため、観光、食事、宿泊をパッケージにした回遊ルートを作成するほか、タクシー会社等への受入体制構築の提案を行う。 ・旅行会社や報道機関関係者等向け、一般旅行者向けのモニターツアーを実施する。
B	子育てしやすい環境づくり	あんしん絆再生プロジェクト	プレーパーク実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児及び小学生向けの冒険遊び場（プレーパーク）を実施し、子どもの居場所作りや、子どもが自分で遊びを作り出すことを学ぶ機会を作る。 ・保護者同士の交流を促し、地域コミュニティの活性化を図る。
C	教育環境の向上と次世代の人づくり	樽っ子プライド育成プロジェクト	こどもたちの夢100年事業	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道科学大学と連携し、大学生が考える100年後の小樽のジオラマを作成する。 ・小学生が描く100年後の小樽を市庁舎、駅構内などに展示し、市民に夢のある未来を想像し希望を持ってもらう。 ・小学生が考える100年後の小樽についてアンケート調査を行い、絵画展と共に紹介する。 ・絵画やジオラマなど視覚的なものと文面でこどもたち、学生たちの考える未来を紹介する。
			「樽っ子」育成計画事業	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市内一部の学校で開催しているジュニア案内人の講習会を、より受講しやすい内容にして夏、冬、春休みに開催することで全市的に広め、受講者を増やし、樽っ子たちの郷土愛を醸成させる。

				<ul style="list-style-type: none"> 案内人で提携している旭川市とジュニア案内人においても連携し、交流会を開催することで、互いの案内方法を学習し、意識の向上を図る。
			<p>こどもに優しい環境作り事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 火災、倒壊、不審者など危険性のある空き家を減らすことで、地域環境を改善し、こどもたちが安全で快適な暮らせるまちにすることができる。 空き家を解体し、雪捨て場やポケットパークへの活用できる制度を創設することで、冬季通学時の安全性の向上や身近な遊び場を増やす。 空き家を減らすため、解体後の固定資産税の減免制度、売買時における不動産手数料の補助制度を創設する。 解体予定の空き家を消防訓練（消火、解体）に使用できる制度を創設することで、解体費用を抑制し、所有者負担が減るため解体が促進される。 空き家対策として、建築基準法、消防法の国の特区制度を活用し、特区認定をすることで法規制を緩和し、改修費用の抑制などにより利活用を促進する。
				<p>【資料1】 リノベーションシティの推進【中部地区】参照</p>
D	地場産業の振興による安定した雇用づくり	にぎわい再生プロジェクト	リノベーション・エリアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 来樽時の利用交通機関として利用率の高い小樽駅と観光名所である小樽運河、堺町通り、寿司屋通りを結んだ中間地点である旧手宮線周辺エリアで新規出店を図るため、出店人材、不動産オーナー、出資・融資者を集めリノベーションスクールを委託により開催する。 地域住民への説明、既存の支援事業活用、リノベーションスクールとの調整機関として協議会を設立する。
E	高齢者が健康で暮らせる生きがいづくり	あんしん絆再生プロジェクト	おたる健幸ウォークポイント事業	<ul style="list-style-type: none"> 40歳から65歳までの年齢層に歩行運動を促し、それにより、将来的な医療費・介護費の抑制を目標とする。 累計歩数に応じて小樽市内で利用できる「小樽市商品券」を交付することで、歩行運動への動機付けとすると同時に、市内消費を刺激する。 累計歩数管理のためのアプリケーションを作成もしくは歩数計の契約を行う。